

保護者の皆様  
地域の皆様

仙台市立上杉山通小学校  
校長 鎌田 康彦

令和5年度 協働型学校評価アンケート結果について

向春の候、皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年末に、児童、保護者、地域代表の方、教職員を対象に実施した協働型学校評価アンケートの集計結果を、下記のとおり御報告いたします。また、設問への回答以外に、自由記述として貴重な御意見もいただきました。心より感謝申し上げますとともに、これからの学校運営の参考にしたいと存じます。

記

- 実施期間 令和5年12月1日～12月22日
- 実施対象 上杉山通小学校児童（児童976名）  
上杉山通小学校保護者（実家庭812家庭）  
上杉地区の地域の方（学校運営協議会委員）  
上杉山通小学校教職員

### 1 児童の姿について

■A: そう思う ■B: だいたいそう思う ■C: あまりそう思わない ■D: そう思わない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

1 あなた(お子様, 本校の児童)は、相手の気持ちを考え、思いやりの気持ちを持ちながら生活している。



2 あなた(お子様, 本校の児童)は、健康や安全に気を付け、健全な身体づくりや目標の実現に向けて努力している。



3 あなた(お子様, 本校の児童)は、学習に意欲的に取り組み、他者と対話しながら、楽しんで学んでいる。



4 あなた(お子様, 本校の児童)は、地域や学校などで、進んであいさつをしたり、あいさつを返したりしている。

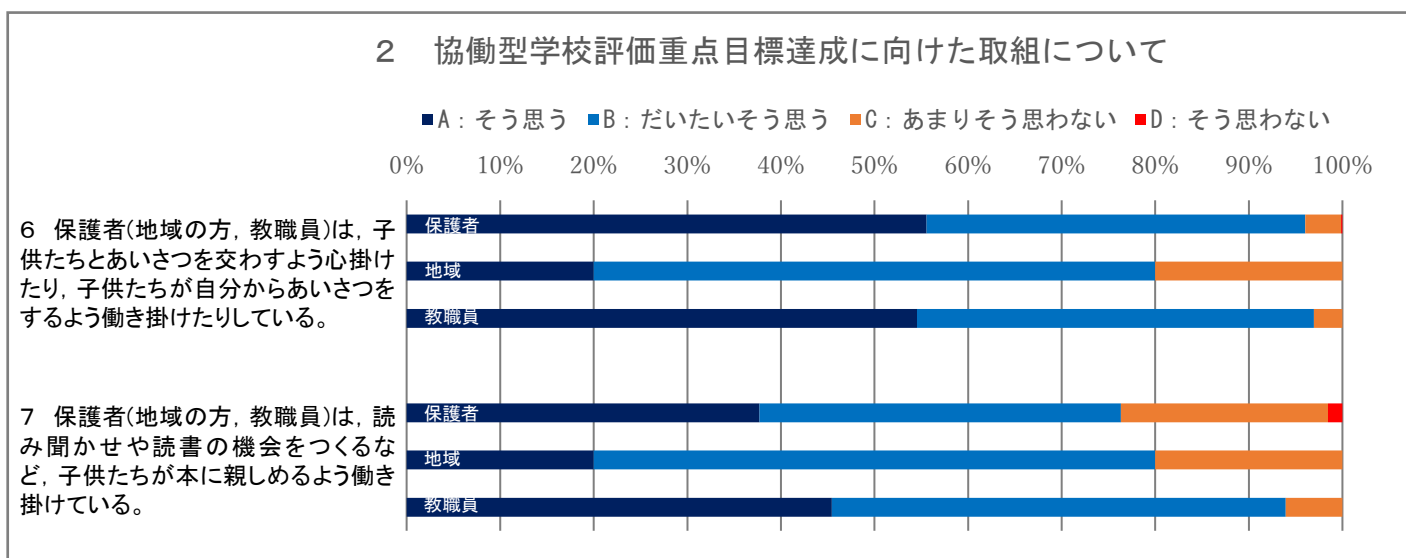


5 あなた(お子様, 本校の児童)は、進んで図書室を利用したり家庭で読書をしたりし、本に親しんでいる。



本校では、学校教育目標「確かな力を持ち 心豊かで たくましく生きる児童の育成」を掲げ、目指す児童像を「思いやりのある子」「健康でたくましい子」「主体的に学びに向かう子」として日々の教育活動を進めております。目指す児童像に関する質問項目1～3について、児童の自己評価結果を見ると、90%以上の児童が自分の姿を肯定的に捉えており、よりよい自分になろうと日々頑張っている様子がうかがえます。

質問項目4, 5は、協働型学校評価重点目標である「目を見て元気に自分からあいさつができる児童の育成」「進んで読書に親しむ児童の育成」に関するものです。「あいさつ」については90%以上の児童が「そう思う」とプラスの評価している一方、「読書」については20%以上の児童が「そう思わない」と回答しています。「あいさつ」は人との関わりや社会性の育ち、「読書」は知性や感性、豊かな心の育ちにつながる大切な活動です。令和5年度には新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが2類から5類となり、様々な制限がなくなりましたが、長く続いたコロナ禍で、人との関わりや体験活動が制限されてきたことにより、発達過程で必要な経験が十分に得られていないことも考慮しながら、周囲の大人が継続的に働き掛けていくことが必要だと考えています。



今年度も、協働型学校評価重点目標に「目を見て元気に自分からあいさつができる児童の育成」「進んで読書に親しむ児童の育成」の二つを掲げ、学校、家庭、地域の三者が、それぞれの立場で目標達成に向けた取組を進めてきました。質問項目6, 7ともに地域の方から「コロナ禍も明け、地域としてもっとできることを考え、子供たちのために働き掛けていきたい。」という声が寄せられました。また、保護者の方からは、「家で読書の時間を確保することが難しい。」との声もありました。学校での読書への取組を進めるとともに、御家庭でも取り組むことができる読書の進め方等について一緒に考え、子供たちがより一層本に親しむことができるようにしていきたいと思えます。

### 3 学校の取組について

■A：そう思う ■B：だいたいそう思う ■C：あまりそう思わない ■D：そう思わない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

8 学校は、教育目標や経営方針，教育活動の様子等を分かりやすく伝えるよう努めている。



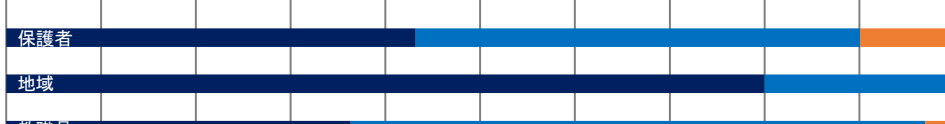
9 学校は、「思いやりのある子」を育てよう教育活動を進めている。



10 学校は、「健康でたくましい子」を育てよう教育活動を進めている。



11 学校は、「主体的に学びに向かう子」を育てよう教育活動を進めている。



12 学校は、いじめ防止やよりよい人間関係づくりのための指導や環境づくりに努めている。



13 学校は、自分からあいさつができる児童を育てよう教育活動を進めている。



14 学校は、進んで読書に親しむ児童を育てよう教育活動を進めている。



質問項目 8～14 は、学校の取組に関するものです。概ね「できている」という評価となっています。

質問項目 8 の「学校は、教育目標や経営方針，教育活動の様子等を分かりやすく伝えるよう努めている。」では、「感染症等で長く休んだときにお便り等のデータを送信してほしい。」という御意見をいただきました。今年度学校のホームページを全面リニューアルし、必要な情報にアクセスしやすくするとともに、学校からのお知らせのページを充実させてきました。また、冬休み明けからは保護者の皆様に御協力いただき、「まなびポケット」の運用も開始し、出欠連絡の一元化や学年だより等のデータでの配信も開始しました。今後も、保護者の皆様や地域の方々に学校の取組等についてより確実に情報を届けることができるよう、改善を図ってまいります。

質問項目 9 の「思いやりのある子」を育てるための教育活動，質問項目 12 の「いじめ防止とよりよい人間関係づくり」については、互いを認め合う温かな雰囲気 of 学級づくりや異学年交流等を通して、継続

的に取り組んできました。新型コロナウイルスの5類への移行後は、全校児童が一堂に会しての朝会や集会も実施し、全校で校歌を歌ったり、表彰時に全校で拍手を送ったりする機会も設けてきました。わかば児童会では、今年度のスローガン「150周年つなぐバトン」を掲げ、「あいさつ運動」「冬祭り」「かみすぎっち探し」等の150周年に関連した活動等を児童が主体となって実施しました。また、保護者の皆様にも御協力いただき、情報モラル教育も推進してきました。SNSやオンラインゲームがきっかけでトラブルになり、いじめにつながることもあります。物事の見え方や捉え方は一人一人異なることを踏まえ、対話や共感的な関わりを通して子供たちが違いを認め、よさを認め合って共に成長できるよう、「チーム学校」としての対応を継続していきたいと考えます。

質問項目10の「健康でたくましい子」を育てるための教育活動については、昨年度から取組を始め、好評を得た「上小マラソンウィーク」を今年度は2回に増やし、年間を通して体力の向上を図ることができるように計画し、全校児童で取り組みました。また、体力・運動能力テストの結果から、本校の児童は「投げる力」と「握力」に課題があることが分かり、対策として、校庭へのストラックアウトを常設と、昇降口への握力計の設置を行い、児童がやりたいときにチャレンジできるようにしました。他にも、放課後に校庭で遊ぶことができる日を増やし、子供たちが体を動かすことができる場の確保も進めてまいりました。今後も、本校の限られたスペースの活用と子供が楽しめる工夫を取り入れ、運動の日常化を図っていききたいと思います。

質問項目11の「主体的に学びに向かう子」を育てるための教育活動については、授業でのGIGAスクール端末の活用を推進してきました。端末やアプリを効果的に用いることで、調べる、考える、まとめる、表現する、共有する等、学習の目的に応じた活動を効果的に進めることができるようになってきました。また、今年度から教職員が研修で取り組む校内研究の教科を、生活科と総合的な学習の時間に設定し、「自ら課題を持ち、主体的に学びに向かう児童」の姿を目指し、取り組んできました。今年度は対話的な活動とカリキュラム・マネジメントを手立てに研究を進めたところ、児童が学び方を学び、児童主体で学習が進む場面も見られるようになり、これから求められる資質・能力が身に付いてきていることがうかがえます。各学年が上杉の地域で学ぶ機会も設定することで、地域の人、もの、ことに目を向けられるようになってきています。今後も「主体的に学びに向かう子」を目指し、取組を進めてまいります。